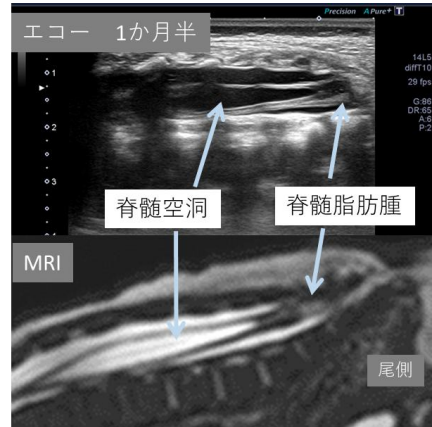


腰臀部皮膚所見と脊髄係留病変の検査

脊髄脂肪腫等の脊髄係留病変が存在すると、排尿排便障害、下肢運動感覚障害が生じることがあります。脊髄係留病変が存在する方のほとんどに、腰臀部(腰仙部)に皮膚所見がみられます。これは皮下腫瘍、表皮の異形成・陥凹、殿裂外の窪み、殿裂のゆがみ、色素沈着・血管腫、多毛等です。逆に、これらの皮膚所見を認めれば、治療を必要とする脊髄係留病変が存在している可能性が高く、高リスク皮膚所見とされます。



一方、腰臀部の皮膚所見の中で、治療を必要とするような脊髄病変が存在する可能性が低い、低リスク皮膚所見のものは、皮膚の単一の窪みで直径5mm未満、肛門から25mm未満の位置に存在するもの、とされています。ただ、新生児、乳児早期の皮膚所見は判断が難しく悩む場合も多いと思われます。

新生児、乳児早期は皮膚の厚みや椎弓の骨化の影響が少ないことから、超音波(エコー)検査で脊柱管内を良く観察でき、病変の有無を判断することができます。鎮静の必要なく行えます。脊柱管内をエコーで観察するのは1か月過ぎまでが理想です。3-4か月頃まででも観察できますが、骨化のため超音波が入りにくくなり、診断の確度が下がります。

高リスク皮膚所見の場合は、脊髄エコー検査後にMRI検査まで行うことがほとんどです。低リスク皮膚所見では、検査は不要とする考えもありますが、当院では低リスク所見であっても、低侵襲なエコー検査を行うことで心配する病変が無いことを示せば、ご家族に安心を与えられるので意義があると思っています。エコー検査で病変が無いことを示すためには、体格、骨化の面で1か月を過ぎている場合は1週でも早い方が良いでしょう。病態的に緊急という意味ではなく、前述のようにエコー検査で診断できる期間に限られているからです。乳児期後半や幼児では、エコーでの判断が困難となり、確実な診断には鎮静でのMRI検査となりますが、皮膚所見やそれまでの成長発達をみて、何処まで検査を行うかはご家族と話し合っています。

月齢年齢や症状の有無にかかわらず、皮膚所見を診断された段階で当科にご相談ください。ご家族にも都合つく限り早めの予約をとるよう説明されてください。よろしくお願いします。

高リスクの皮膚所見の例



血管腫と腫瘍

表皮の異形成・陥凹

殿裂外の窪み

福岡市立
こども病院
皮膚科

赤ちゃんの皮膚を守ろう！

オムツかぶれのケア

オムツかぶれとは？

オムツの中は高温多湿な環境です。おしり拭きによる摩擦など常に刺激が加わり、皮膚のバリア機能は低下しています。

皮膚は傷つきやすく、さらに尿や便が長時間接触することで皮膚のアルカリ化をもたらし、炎症が生じやすくなります。特に水っぽい便はアルカリ性の成分を多く含み、皮膚に強い刺激を与えます。

そのため、便の緩い新生児期や体調を崩して下痢が頻回に出るときは注意が必要です。



おしりのまわりが
赤くなったり、
皮膚がむけたりするよ
っとも痛いんだ！



オムツ交換のたびに洗う
ことも原因になります。
正しいスキンケアをして
対策しましょう！

スキンケアのやり方

Step1: 洗う



洗うのは**1日1回**！
たっぷりの泡で皮膚をなでるように優しく洗います。洗剤は泡タイプで皮膚に優しい弱酸性を選びましょう。

Step2: 拭く



ゴシゴシとこすらず、押さえるようにやさしく拭いてください。便は摘み取るようなイメージで拭きます。オイルで浮かしてもよいです。

Step3: 保湿



おむつ替えやお風呂あがりは保湿をしましょう。
ワセリンや撥水作用のあるクリームは便の付着を予防してくれます。

オムツかぶれが起きた時

スキンケアを行いながら、こまめにオムツを交換しましょう。

★こんな治療方法があります。

- ①**亜鉛華軟膏**: 酸化亜鉛を含む軟膏で、炎症を抑え皮膚を保護する役割があります。
 - ②**ステロイド外用剤**: 抗炎症作用があり、炎症の程度によって強さを使い分けます。
 - ③**粉状皮膚保護材**: ストーマケアに使われる製品で、滲出液のある部位にも密着します。
- 便のアルカリ性を弱酸性に緩衝させ、ゲル化することで皮膚を保護してくれます。

※医師や看護師の指導を受けながら使用しましょう。

洗いすぎに注意しましょう。ひどくなる時は**早めに皮膚科を受診**してくださいね。



☆診療体制のご紹介☆

○外来診療担当医表

添付の別紙をご参照ください。また、下記URLからもご覧いただけます。

<https://childhp.fcho.jp/outpatient/doctor>

☆地域別紹介患者統計(2025年4~10月)☆

大変多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。
令和7年度は10月までの累計で紹介率は100%を維持できております。
重ねてお礼申し上げます。
今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

地域医療連携室・室長



地区	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
福岡市医師会地区	619	569	606	638	514	592	603
東区	305	298	272	329	296	295	329
博多区	81	60	87	83	65	64	81
中央区	58	45	47	37	36	33	28
南区	61	53	54	58	21	62	49
城南区	20	21	24	25	14	25	27
早良区	52	40	65	49	41	55	50
西区	42	52	57	57	41	58	39
地区	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
糸島医師会地区	25	21	22	18	19	29	25
粕屋医師会地区	168	166	173	182	134	161	183
宗像医師会地区	61	58	59	53	41	48	69
筑紫医師会地区	90	77	76	95	61	84	71
その他福岡県内	71	45	67	42	49	44	52
九州(福岡県外)	125	102	135	151	185	174	153
その他(九州外)	28	16	34	16	25	24	17
合計	1187	1,054	1,172	1,195	1,028	1,156	1,173

☆連携室からのご案内☆

当日の診察・入院の依頼は医師間での連絡をお願いしております。地域医療連携室へご連絡ください。

当日の担当医へ電話をお繋ぎいたします。



福岡市立こども病院 地域医療連携室
webサイトはこちら

診療情報提供書を緊急にFAXいただく場合は下記の番号をご利用下さい

- ・地域医療連携室（平日時間内の対応） FAX 092-692-3318
- ・救急事務室（時間外・土日の対応） FAX 092-692-3369

ご意見・お問い合わせは
地域医療連携室までお願い
いたします
TEL : 092-692-3316
Mail : renkei.k@fcho.jp